

北陸農政局長賞受賞

～興津地区での豊かなむらづくり～

のうじくみあいほうじんきょうづえいのうくみあい

受賞者

農事組合法人興津営農組合

かほくぐんつばたまち
(石川県河北郡津幡町)

■ 地域の概要

農事組合法人興津営農組合が所在する興津地区は、金沢市近郊の農業地帯である津幡町北西部の中山間地域で、農業は稲作が大半を占めている。県営中山間地域総合整備事業により、基盤整備が実施された平成9年から前身となる営農組合による集落営農が行われて、平成27年に営農組合が法人化され、本地区の水田9割を借り受けた中心経営体として、地域農業を展開している。



位置図

■ 主なむらづくりの内容

一方、興津地区では、若年層の流出と高齢農業者のリタイヤにより、営農の継続や地域活動が困難になることが予想されたため、今後の集落のあり方を話し合った結果、地域に元気を取り戻すために、営農組合の主導により、「興津創造の会」と「興津を元気にする会」を平成25年に設置し、両輪による地域づくりが行われている。

「興津創造の会」では、食の伝承、健康の維持、緑の保全の3つの活動方針を策定し、推進体制の整備を行っている。「興津を元気にする会」では、特産品のかぼちゃ（興味津々南瓜）を利用した加工品づくり、彼岸花のオーナー制度、元気が出る「興津音頭」のCD製作や収穫祭の踊り、県立看護大学と連携した健康づくりなどの活動を行っている。

このような興津地区の都市農村交流の推進、6次産業化による生業創出などにより、今後とも魅力あるむらづくりが期待される。



写真1 特産品の興味津々
南瓜



写真2 かぼちゃのアイス
クリーム



写真3 元気が出る「興津音頭」
を踊る地域住民